平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	フィールド・スタディＩＡ(Field Study IA)【地域マネジメント】			**授業コード**	E047901
担当教員名	今西　衛、舛田　佳弘			**科目ナンバリングコード**	E11411
配当学年	1	**開講期**	前期(集中)		
必修・選択区分	選択	**単位数**	2		
履修上の注意または履修条件	本授業では夏季休暇を利用して実際に現地に赴く機会が複数あります。部活動やアルバイト等と重ならないよう事前に調整をしておきましょう。				
受講心得	地域の現状や課題に対し、理解を深めること。 報告及びディスカッションを行うので、積極的に自分の意見を表明すること。 地域マネジメントコース希望者は受講しておくことが望ましい				
教科書					
参考文献及び指定図書	橋本 行史 編著「地方創生の理論と実践 -地域活性化システム論- 」、創生社、2015				
関連科目	フィールドスタディIB				

授業の目的	大分県は「おんせん県」といわれるほど、温泉が各地にあり観光資源としても活用されています。しかしながら、今回のフィールドとなる豊後大野市は温泉がない市です。そのような市でも自然やジオパーク、伝統・文化、地産のものを活かした食など、観光資源化されていない多くの魅力あふれたものがあります。本授業では、実際に現地に赴き、ホンモノの体験や現地プロガイドのコーディネートを通じて、当該地域の現状や抱えている課題、地域の隠れた魅力を理解、発見するとともに、その理解に基づいて若者の感覚を活かした説得力のある意見表明を行える能力を養うことを目的とします。
授業の概要	2泊3日の合宿形式で現地の名所を訪問するとともに、学生自身にとっても当事者として真剣に考えることができる体験型学修を実施します。最終日には「観光をベースとしたコミュニティビジネスの可能性」をテーマに班ごとに報告を行い、ディベート形式の討論を通して成績評価を行います。 事前学習、予習、復習、レポートの採点結果をフィードバックして、さらによりよい提案に結びつけます。

〇授業計画	
学修内容	**学修課題(予習・復習)**
第 1 週 ： オリエンテーション 目的、概要、日程等の説明	対象フィールドの事前学習(8時間)
第 2 週 ： 事前学習 合宿で学修するための目標設定を行ってもらいます。	対象フィールドの事前学習(8時間)
第 3 週 ： 事前学習 提出された目標設定に基づいて、教員から個別にコメントを行います。	課題提出
第 4 週 ： 事前学習 教員からのコメントに基づき、必要な情報を自身で収集する。	対象フィールドの事前学習(8時間)
第 5 週 ： 合宿(1日目前段) 現地を巡って事情を知るとともに、新たな魅力を発見してもらいます。	
第 6 週 ： 合宿(1日目中段) 引き続き現地の見学を行ってもらいます。 また、ロッジでの食事等、自然の豊かさを実感してもらいます。	
第 7 週 ： 合宿(1日目後段)	振返り(2時間)

見学した地域についての振り返り学習 何が魅力だったか、何が不便だったかなどを話し合って整理します。	
第 8 週 ： 合宿（2日目前段） 引き続き現地の見学を行い、地元住民から現地事情について説明を受けます。	
第 9 週 ： 合宿（2日目中段） グループに分かれ、自分たちの発見した魅力について報告の準備をしてもらいます。	
第10週： 合宿（2日目後段） 報告用のポスターを作成し、翌日の報告練習を行ってもらいます。	振返り(2時間)
第11週： 合宿（3日目前段） 報告前の最終確認として、資料の補足や報告練習を行ってもらいます。	
第12週： 合宿（3日目中段1） 現地住民を交えて、豊後大野の新たな魅力（あるいは改善が必要と感じられた点）について報告を行ってもらいます。	
第13週： 合宿（3日目中段2） 他班の報告に対して、質疑を行ってもらいます。自分たちの主張を説得的にアピールすることが成績評価につながります。	
第14週： 合宿（3日目後段） 本合宿の総括として、振り返りシートを作成してもらいます。	
第15週： 報告、質疑応答、振り返りシートなどから成績評価を行います。	振返り(2時間) レポート提出(8時間)レポートは後日返却します。
第16週：	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	（3）アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅱ：地域での体験交流活動を教育内容に含む科目	
備考		

〇単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	地域の問題を自身の問題と考えて積極的に取り組むことができる。
【知識・理解】	豊後大野市について事前に情報収集を行うことができる。 現地で得た情報にもとづいて、複数の人に確認するなどして、情報を正確に把握できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	現地住民や関係者と積極的にコミュニケーションを図り、より多くの情報を集めることができる。 プレゼン報告に際しては、わかりやすく且つ説得的になるよう工夫を凝らすことができる。
【思考・判断・創造】	地域の魅力を発見し、自分の考えとして地域の可能性を表明することができる。 他者の報告を注意深く聞き、疑問点を見出すことができる。 他者からの指摘に対して適切な受け答えを行うことができる。

〇成績評価基準（合計100点）	合計欄	100点

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		**10点**	**20点**
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		**5点**	**15点**
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		**5点**	**15点**
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		**10点**	**20点**

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

〇配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	Sレベル：　議論を超えて、課題の解決のためそれを根拠づける説明がなされている。 Aレベル：　内容を踏襲し、課題の解決のためそれを根拠づける説明がなされている。 Bレベル：　課題の解決手段はあるが、それを根拠づける説明が少ない。 Cレベル：　課題解決の提案がない
発表・その他（無形成果）	Sレベル：　客観的な説明に加え、聴衆を引き付ける魅力的な発表を行っている。 Aレベル：　客観的に論理的に発表している。 Bレベル：　客観的ではないが、相手に伝わるよう発表している。 Cレベル：　発表の内容が相手に伝わらない。